

“街道テクテク中山道” (STF 関連) No. 10

2018-6-17

参加者：芦田拓也、荒木義修、碓貴臣、黛政男、太田哲夫、後藤幸子、佐熊範和、染谷みどり、政芳一、矢崎文彦、高野泰三郎、三木和幸、山岸任、山口健三、木村芳一

行程：新町→高崎 12.8km

新町駅→弁財天→川端家(登録有形文化財)→信迎庵→高崎伊勢崎自転車道(土手、土手下には三菱鉛筆工場)→柳瀬橋(利根川の支流である烏川)→北向子育観音→観音寺→閻魔堂・庚申塔・馬頭観音→大山邸→倉賀野古商家おもてなし館→太鼓橋跡→男女双体道祖神→九品寺→倉賀野宿脇本陣跡→倉賀野神社(倉賀野総鎮守)→安楽寺(古墳)→浅間山古墳→愛宕神社→延養寺→高崎駅

- ・下に示すように、新町駅近辺で全員集合写真を撮った。
- ・曇り気味で、気温は比較的低温、歩き日和であった。相変わらずほぼ平坦な道で、日本橋から高崎までの歩行距離は 110km に達した。
- ・4 世紀末頃からの古墳がいくつか見られた。安楽寺は古墳(円墳)に隣接して建てられ、また浅間山古墳と思われるものが道沿いから少し離れたところに見られた。倉賀野近辺には他にもいくつかあるようで、その土地の権力者用であったようだ。
- ・歴史を感じさせる古民家が点在していた。高崎市新町隣の藤岡市では、江戸後期の代表的建物の川端家(登録有形文化財、白壁・土蔵・住宅を備えた屋敷)、また高崎市倉賀野町では、大山家(大山小児科、昭和 8 年建築、主屋、塀、門、土蔵あり)、および倉賀野古商家おもてなし館(明治期の建築、なまこ壁を持つ蔵造りの商家)が見られた。保存状態は極めて良好であった。
- ・江戸時代の倉賀野宿は本陣、脇本陣が置かれ、また日光例幣使道(日光東照宮の例祭に合わせて、京の朝廷から金の御幣を託された例幣使の日光への参拝道)の基点であった。さらに烏川の倉賀野河岸は江戸と諸国を結ぶ物資輸送の中継基地であり、大変賑わったようである。
- ・高崎駅近辺で、店選定に多少の難があったが、中山道テクテクの打上げを行った。



倉賀野古商家おもてなし館

新町駅近辺

“街道テクテク中山道” (STF 関連) 特別編

2018-6-18

参加者：荒木義修、碓貴臣、黛政男、後藤幸子、佐熊範和、染谷みどり、高野泰三郎、木村芳一

高崎駅→電車→横川駅→碓氷関所跡→アプトの道・遊歩道→旧丸山変電所（重要文化財）→峠の湯（昼食：峠の釜めし）→坂本宿→横川駅

- ・碓氷関所は箱根関所と同様に、関東入国の関門として、徳川幕府により設置され、入鉄砲と出女に厳しかったようである。現在の門は復元されたものである。
- ・トロッコ列車は土日限定であったので、その横に設けられた、なだらかな勾配を持つ遊歩道を歩いて峠の湯まで行った。途中、明治44年に旧碓氷線電化で列車に電力を供給するために建てられたレンガ造りの旧丸山変電所を見た。
- ・峠の湯から降りてくる途中にある坂本宿は、将軍家光の時代に、安中・高崎藩の領民を移住させて計画的につくられた宿場町であるので、整然とした街並みであり、各家は屋号を掲げていた。しかし、人影が少なく、ひっそりとしていた。地元の小学校は立派な鉄筋コンクリート造りであったが、廃校になったということである。生活の糧を得るための仕事が少ない状態ではやむを得ないであろう。
- ・途中で雨が降ってきたので、早めの帰宅となった。



丸山変電所



坂本宿